

..... 編集後記

◆新年明けましておめでとうございます。旧年中はご愛読いただきありがとうございました。「地質ニュース」は今年も皆様方に地質に関する様々な情報を正確で、分かり易く、そして楽しくお届けすべく努力して参ります。今年もご愛読下さいますようお願い申し上げます。

◆昨年末、自然災害が続いた一年を静かに送ろうと思っているさなか、スマトラ島で巨大地震が発生、大津波で10万人を超える犠牲者がでてしまいました。新しい年は、災害のない年になってほしいものです。

◆新年1月号は、昨年の秋に千葉市で地質調査総合センターが日本地質学会と共催した『地質情報展2004 ちば 海から生まれた大地』の特集号その一です。この特集号でこの催しに直接参加していただけなかった皆さんに展示のエッセンスを紹介します。

◆まず事務局の吉田氏が地質情報展の概要を紹介、穴倉・川上氏は「海から生まれた千葉の大地—その歴史をひも解く」と題して今回の地質展のテーマを解説しています。さらに穴倉氏は「海岸段丘と巨大地震」、川上氏は「房総半島と付加帯」をテーマに、千葉の地形や地質がプレートの動きやそれに伴う巨大地震と密接に関係して形成されてきたことを解説されています。

◆徳橋氏は「タービダイトの話」、中沢氏ほかの皆さんは「木更津付近の地質」と房総半島の地質について

解説されています。房総半島は地層観察には絶好の地、この解説を参考に出掛けてみませんか？

◆荒井氏ほかの皆さんが「マンガン団塊の採取」、佐脇・水垣氏が「千葉近辺の温泉」、金子氏が「千葉県の天然ガス・ヨウ素資源」と海洋と陸域の資源について紹介されました。採泥模型を操る子供の顔は真剣そのものです。千葉県にこんなにたくさん温泉があることを、そして千葉県のヨウ素が世界的な資源であることをご存じでしたか？

◆須藤・藤橋氏は「千葉県の海浜砂」・「千葉県の山砂利資源」、氏家氏ほかの皆さんは「姉崎の土壌汚染」をテーマに解説され、あちこちの浜辺の美しい砂の姿が紹介されましたが、その一方山砂採取に伴う環境破壊や、目には見えにくい土壌の中で進む環境汚染問題に警鐘が鳴らされました。

◆以上の特集記事の他に、石原顧問は北海道の札幌郊外にある豊羽鉦山が世界有数のインジウム鉦山となっていることを紹介してくださいました。

また、柏木氏ほかの皆さんは、「モンゴルの地質と地質調査」について紹介されました。地質だけでなく、交通事情やモンゴル料理なども興味津々です。

須藤氏は「小さな街の大きな恐竜」と題し、地球の反対側の小さな街にある博物館の大きな恐竜を紹介してくださいました。

◆地質情報展の特集は次号も続きます。ご期待下さい。(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：山本茂男

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・
光畑裕司・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3603

Fax. 029-861-3602

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第605号	2005年	1月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2005年1月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2005 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。